

平成 26 年度

第 3 回磐田市協働のまちづくり推進委員会 会議録

日 時	平成 27 年 2 月 6 日（金）午後 2 時 00 分～3 時 45 分
場 所	磐田市役所西庁舎 3 階 303 会議室
出席委員	河井孝仁委員、杉田友司委員、村田建三委員、 藤原幸一委員、小畑利栄委員、山下貢史委員、 寺田敏雄委員、（欠席者 3 人）
事務局	市民部市民活動推進課長、グループ長、同主任、副主任
オブザーバー	磐田市市民活動センター長

[議題]

- 1 平成 27 年度事業計画（案）
- 2 協働のまちづくり提案事業見直し（案）

資料 平成 27 年度事業計画（案）

資料 平成 27 年度事業計画（案）資料編

[会議概要]

- 市民活動  
推進課長 平成 26 年度第 3 回協働のまちづくり推進委員会を開会いたします。  
本日の会議につきましては、磐田市ボランティア連絡協議会山際委員の欠席、秘書政策課長袴田委員は遅れての参加と連絡を受けました。  
委員の過半数の出席が認められますので、磐田市協働のまちづくり推進委員会規則第 3 条第 2 項により、成立していることをご報告いたします。では、委員長よりご挨拶をお願いします。
- 委員長 滞りなく協働のまちづくり推進委員会を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。忌憚のない意見をどうぞよろしくお願いします。  
磐田市をより良い街にするために、御意見をいただけたらと思います。
- 市民活動  
推進課長 では、議事に移りたいと思っております。  
ここから先の進行につきましては、河井委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いします。
- 河井委員長 では、議題 1 「平成 27 年度事業計画（案）」について。提案事業の見直しについては、別途改めての議題としますので、それを除いた形で事業計画（案）について事務局より説明を。
- 事務局 【資料】平成 27 年事業計画（案）について説明
- 委員長 事務局から説明のあった事業計画（案）について、御意見をいただきたい。
- 委員 前回、他の会議と重なり欠席してしまい申し訳なかった。  
目標値をもって行き、それに向けて事業が進められることは必要なこと。これをふまえ、市民活動センターの役割、協働のまちづくりを進める行政サイドとの関わりの件がひとつ。それから 4 月 1 日から交流センターを中心にまちづくり・地域づくりをしていく中で、組織体が動いていく。協働の分野で考えると交流センター母体と、市民活動センターの役割、行政との三つの共生はどう考えるか。情報を分かち合い、それぞれの役割をどうとらえるか。
- 委員長 行政、市民活動センター、交流センターの三者の役割はそのように考えられているか。行政としては、どのような位置づけで考えられているか。それを受けて市民活動センターはどう考えているか。行政は、行政

と交流センターの役割を協働のまちづくりの点からどう考えているか。

事務局 市民活動センターは交流センターを指導・助言できるポジションだと考える。交流センターの活動相談ができる窓口が市民活動センターと考える。

委員長 行政としては計画(案)を的確に実施し、その中で交流センターは行政の計画を実施する基盤先進として動く、市民活動センターは交流センターの指導・助言をする役割を持つということか。

事務局 コーディネートやアドバイスをする役割を持つと考える。

委員 行政はそのような言い方をするが、見方を変えてみると市民活動センターはどういった役割があるのか。市民活動センターを頼りに集まる市民活動団体がある。それはNPO法人であったり、無かったり、活動意識を持ったボランティア団体であるが、市民活動センターでNPO法人化の相談をしたり、活動の方法や行政窓口の紹介をしてもらっている。この中で、交流センターができたとき、市民活動センターは指導的な立場にたてるのか？また、そのような指導的立場にしようとしているならば、市民活動センターの人材をもっと育てなければならないと思う。そのために、市民活動センターの役割を明確にしていく必要があると考えた。

委員長 これを受けて、事務局から何かあれば。

事務局 のっぽ（市民活動センター）職員のスキルアップは当然必要。それがあつての助言となる。スキルアップのための研修等も検討している。相談業務の満足度を上げていきたい。ソーシャルネットメディアを活用して、相談内容の解決紹介を考えている。それものっぽ職員のスキルアップにつながると考える。

委員 地域づくりでやろうとしている分野は、行政との連携をどのように協働するかが多い。そのような課題をのっぽのところですべて受けることができますか？という疑問がある。のっぽで行う業務として、団体がより活動しやすく育成していくという分野に働いていくのか、この業務を含めて地域づくりに課題が出てきたときに相談・助言を行う役割を担うべきなのか、行政はどのように思っているのか。

委員長	センター長はどうか。地域づくり協議会の支援を市民活動センターの役割として考えているか。
センター長	<p>「指導」ではない。地域づくりのための交流センター化の中で、地域それぞれの困りごとはあると思う。そのための情報提供などの支援、お手伝いはしていきたい。次に「人材」については、行政や地域で対応できなければ、その中間的立場からきっかけづくりとして養成講座、その他の地域への視察などの仕掛けは市民活動センターとして必要な部分ではないかと話をしてきた。</p> <p>また、いろいろな立場から地域の課題をみつけた方々が地域の活動の中にどのように融合していくか、その場を作っていくという視点を持っている。機会を作る、つながりを作る、知ってもらう、自分たちだけでなく地域の実情を伝えたいと、活動をしていただきたいと思う。そこを考えないと地域間のつながりができない。「指導する」と言ってしまうと語弊が生じる。人間関係、団体関係をうまくつなげていきたい。</p>
委員長	市民活動センターは、交流センターの地域性や独自性を尊重しながら、必要に応じて人材育成を含めた支援を行い、かつ、コーディネートを実現していく役割を持つ、という位置づけということか。
センター長	そのとおりと考える。市民活動センターは協働、市民活動の啓発、推進を行ってきたが、年数もち、そこはだいぶ進んできたため次のステップとして、活動をつなげてくれる次世代の育成が必要。このことは市民活動センターだけでなく、交流センターにも同じことが言えるのではないか。
委員長	のっぽと交流センターの関係について、他の委員の方から何か意見はないか。
委員	「交流センター」とは何か、と思っている地域、地区が多いのではないか。
事務局	これから生まれる組織なので、そのように思っている地区は多いと考える。
委員長	交流センターについては、概要の資料があるため参考にしてほしい。交流センターと市民活動センターの役割、関係について何かご意見があれば。行政からは「指導」ということもだが、市民活動センターは「指

導」ではなく、コーディネートや人材育成など支援をして、交流センターの独自性、地域性を尊重していきたいと意見が出た。

この辺を含めて、何かあれば。

委員

4月以降、「地域づくり協議会」を誰が、どんな目標を持って進めていくのか、よく見えていないことが多い。おおよその話を聞いてすばらしいことが始まると大賛成。頑張ろうと思う。そうしたとき、地域の将来像を見込んで、数年後にどのような方向性を持って、どれだけやったら達成したかという議論はまだされていない。これから。

例えるなら、山に登るために、その山がどこにあるのか、どのような装備が必要か、どのような手段で上るかという議論がされていない。このような状態の中で、市民活動センター「のっぽ」の位置づけが分かるわけがない。

いろいろなところで培われたノウハウを地域の人達に使っていきたい、使った方が良くという環境になるとそれは、「のっぽ」を経由して団体から人材を借りてきて、教えてもらうことになる、こんなイメージを持っている。

委員長

「地域づくり協議会」は「交流センター」でどんな成果を出せば、成功だと言えるのか。「交流センター」は「地域づくり協議会」の事務局の位置づけにあると思うが、どうなると成功かわからないのに、「のっぽ」との関係がどうだという議論は分からない、ということが極めて的確なこと。事務局としては、行政内縦の関係で他の課が担当かもしれないが、「地域づくり協議会」の事務局を担う「交流センター」は何を持って成功と言えるのか、認識している範囲で回答を。

事務局

資料7ページに「地域づくり協議会」の目指すものが示されており、その成果もその次に示されているとおおり。

委員長

目指すものが下に書かれていること。上に書かれていることは単にそのツール。

委員

4月1日以降、「のっぽ」がどうするのかということではなく、一年先を見込んだ時、どういう役割を担っていくのか事務局は良く整理しておかなければならないということ。

委員長

他に何かあれば。

- 委員 急に「交流センター」が浮上してきても、組織づくりはこれからのため、何を指すのか、どうしたら目指すものにたどり着くのか、例えば、コーディネート、人材育成といわれても、何をしてくれるの？という話になる。地域づくりの組織を作ったが、市民活動センターの役割が確定されていない状況ではないのか。
- 委員長 「地域づくり協議会」の事務局として「交流センター」がどんな成果を挙げればよいのか、その成果を挙げるために市民活動センターの役割をどう考えるか、今後検討してほしい。  
その他、ご意見あれば。
- 委員 企業からアイデアを出してもらったり、応援をいただくようなことはあったか。
- 事務局 今年度、「県ふじのくに西部NPO活動センター」が磐田市で「社会貢献相談会」を実施した。相談等3社から話があった。これまで、菊川市、掛川市で実施されてきた。このように声をあげてくれる企業があった。今後、団体などつながることができたらいいと考える。
- 委員 防災の関係でも、さまざまな企業がいろいろな角度でお互いが地域社会の中で貢献している。その分野も協働の推進事業に入れていくのか。
- 事務局 頑張らなければいけないところと考える。
- 委員長 出前講座の中でも事業者向けに積極的に伝えていくということが書かれている。活動パネル展についても、例えば企業で行っているCSRのパネルも出してもらおうなど内容によって踏み込めるところがあると思う。
- 事務局 「企業のCSRについて」のみの単体では難しい。  
また、今年度、提案事業にはならなかったが、「磐田国際交流協会」が昨年と同様にフォーラムを開催することになった。今回は、企業からの協賛金をあつめて実施する。このような中でも企業との関わりができたと感じる。
- 委員長 市民活動フェスタや情報交換会など、市民活動団体に限ることではなく、企業のCSRとして参加をってもらうことで磐田らしさが出てくるのではないかと。非常に優れた力を持った企業があるので、こういう方々

が磐田を良くするために頑張っていることを伝え、パネル展や出前講座などフェスタ、情報交換会への参加を働きかけたら良いと思う。

事務局 市民活動フェスタに、ヤマハ発動機ボランティアの参加、自動車販売店からの福祉車両の展示を計画している。

委員長 委員からも話が出たので、計画の中で企業のCSRに関わる場所も積極的に書いてもらい、新たな事業を起こすことも検討していく中で、現状の事業に関わりを持たせながら、できることはたくさんあると思うので、磐田の企業が持っているポテンシャルを生かしてほしい。

委員 情報を提供する場をうまく利用する。企業も社会的貢献の場があって、参加、参画してもらうことを考えたらいかがか。

委員長 その他何か。  
計画については、「地域づくり協議会」の明確化、これからのことなのでわかったところから広報してもらうこと、また、企業との関わり、役割の明確化を含めて若干の補正があれば、うれしいと思う。  
続いて、協働のまちづくり提案事業の見直しについて、事務局より説明を。

事務局 【資料】協働のまちづくり提案事業 見直し（案）について、説明

委員長 協働のまちづくり提案事業見直し（案）について、説明をいただいた。委員の皆さんから、御意見があれば  
見直し内容は、平成28年度の実施要項への反映で良いか。方向性に沿って、見直し（案）を出して良いかということか。

委員 この制度ができて、何年になるか。

事務局 平成21年度から実施、今年で6年目の事業となる。

委員 6年間実施してきて、今まで実施してきた団体がそれぞれの目標に沿って活動しているのか、活動が休止してしまっているのか、状況や実態が分かれば、教えてほしい。  
その中で、主体的に活動している団体に対して、行政はどんなサポートを行ってきたか。  
また、審査会で選出されなかった団体の再エントリーがあるのか、教

えてほしい。

事務局 状況については、前回資料の「実施団体の継続と発展」一覧、市ホームページに掲載してある。

委員 その中で、一番知りたかったのは行政としてどんなサポートをしてきたかということ。

事務局 平成 25 年度子どもの職業体験の実施をした「キャリアドリーム」が今年度は、団体が主体となって、事業者から協力金をいただき、商工観光課から補助金をもらい、「子どもの職業体験」を事業化した。

平成 25 年度実施団体「いわた動物愛護協議会」が、県の「動物管理指導センター」と市の環境課と協働で、12 月の避難訓練時に「ペットの同伴避難訓練」を実施した。

「竜洋 B & G 海洋センター」がスポーツを通して不登校の児童生徒へのサポートを提案したが、採択されず自主事業として、不登校の児童生徒を対象としたリクレーション教室を企画した。中間報告時に確認したときには、問い合わせはあったものの参加者は現在までないということだった。

センター長 国際交流協会は「インターナショナルフォーラム」を計画している。昨年から、センターとして関わっているが事務局が他の団体との関わりを持てるようにしてきた。2 年目になって事務局の課題が見えてきたところを伝えながら進めている。協賛金を集める意識づけを行ったところもある。

また、「地域医療いわた」については団体を作るところから課題があり、関わってきた。団体が自主的な活動をしていくために健康増進課と連絡を取り合いながら進めている。その中でシンポジウムを計画実施したが、このように目に見える形にしてわかりやすく進めてきた。

この 2 団体は、市民活動センターの登録団体なので、いろいろとサポートしている。

以前活動していた、「コンパス」という団体も NPO 法人になり、県から事業費を取り、活動を広げている。浜松から菊川までの子育てのネットワークづくりを展開している。法人化したことにより、自立した団体もある。

NPO 法人マリプロジェクトも関係課とのつながりの中で良い関係を作っている。充実した活動が続けられている。

NPO 法人いきいきいわたも、ライフサポートセンターとの活動など



が認められ、地区社協との活動につながっている。

委員長

いかがでしょうか。

今提示されているのは、見直し（案）方向で具体的な修正案を平成27年度第1回の委員会の中で提起されるので、方向性として違うと感じるところがあるか。この部門が議論の対象に入っていないのはおかしいのではないかなど、あれば。追加して議論すべきものがあればご提議を。

委員

人口減少については、磐田市も例外ではない。地域全体の問題と思う。地域で、自分たちの先を考えると地域は寂れる一方。へたっていくばかりをよしとすればよいが、そうではないと考えると改善にむけた手立てはあるのかと考えた。人口減少の何が問題なのか、人数が減ることはしかたのないこと、減った人数の中でどうやって生活していくか、発想を変えなければならない。ダメージが大きいのはみんな弱っていくこと。弱っていくことは地域の足を引っ張ることになる。地域の中で新しい仕組みをどのように作っていくか、簡単には結論は出ないが課題を認識することができた。

仕組みづくりを進めるときに地域の「交流センター」は良い拠点となる。地域が中心となって協働を進める方法も大いにあると考える。地域が社協、行政、NPO、企業とつながることで地域のレベルを上げるための仕組みがいろいろと考えられる。提案事業も地域から事業をやりたいからと提案することもありではないかと考えた。

委員長

委員がいう「地域」とは自治会を考えているか。

委員

自治会ではなく、「地区社協」を考えている

委員長

例えば、地区社協からも提案できる仕組みがあると、より地域の課題が見えやすくなるのではないか、ということか。

委員

そのとおり。

地域と地区社協が皆さんの前で、地域の持つ課題を話ができれば有効な手段かもしれない。

委員長

今日は案を決める場ではないため、こんなことができないだろうか、など提案してほしい。それを事務局で第1回委員会の修正案として活かしてもらおう。主体のところをどうしたかなど、考えていただければと思う。

委員 この提案事業は良い事業と感じている。しかし、疑問がある。提案した団体が資金0、事業を実施するとき人件費が必要になる、本来団体として稼がなくてはならないところまで支援するのか。資金がないが、事業の方向性が良いから大事に育てる方向で良いのか、または、団体として自前で準備すべき条件が必要か、悩むところ。

事務局 事業の目的、団体の支援が良いかどうか要項修正（案）の中で団体の主体性の有無、資金の状態、事業内容の確認を含め、あげさせてもらっている。

委員 資金が無いところから事業の目的がしっかりしていれば、団体を育てあげたい、事業を実施したときの人件費も良しとしてよいのか、0から育てることに戸惑いがある。

委員長 従来、0からの立ち上がりを支援する事業ではなかったはず。基本的には事業完成能力があるかどうか、「頑張ります。」と気持ちや事業の方向性だけの団体は対象としてこなかった。そこを含め、委員からの提起もある通り、支援をどの程度捉えるのか、立ち上がり支援まで含めてこの事業の中に入れていくのか、ある程度基礎的な力を持った団体がその力を発揮して、具体的な行政課題、地域課題を解決していくために事業なのか、というところの明確化も含めて①②③とみんなきれいに一緒になるわけではないので、どこの色彩が濃いのか、事業の仕立て方が変わってくるため、場合によっては、このひとつの案だけではなくて、こちらを重視すればこのような触れ方もあるでしょうと、いう形の修正案を出してもらえれば、27年度において詳細な議論ができるでしょう。

委員 芽も出ていない、でも面白そうなことを考えているなどというだけではやはり、問題があると思う。「のっぼ」が日常的にいつでも相談にのる、いつもオープンになっている、茶飲み話的なことから、「それいいね。来年提案事業出してみようか。」などというところから育てることもひとつの方法ではないかと思う。

センター長 確かに今までの相談の中にも、このように「提案にあげてみようかな。」という場合があった。この事業の趣旨を伝えながら今までやってきたこと、これからの課題をどのようにとらえているか、どのような方法で取り組んでいくか、その先はどうするのか、このことを伝え、実施していく団体はその後も続いている。いきなり、行政へ申請を出す場合は団体

の動きは分からないが、相談があればネットワークの中で分かる場合が多い。

委員 基本的なことは良いと思う。ひとつ、テーマの設定については「テーマ設定型」を設定しているがいろいろな団体に関心を持ってもらうためには選択できるようなテーマがあると良いのではないか。活動の幅が広がり、参加しようとする団体の枠も広がるのではないか。

委員長 事業の方向性の意見がでて、今回事業の見直しなので、今までの評価をどう考えるか、その評価をふまえて事業をどのように見直ししていくのか、趣旨のところを含めて、趣旨が明らかになればそれを実現するために今のことが適正なのか、事業課題のしつらえ方になると思う。27年度第1回委員会にはこれらをふまえて修正（案）を提起してほしい。

委員 修正（案）の中に、事業の継続の有無とあるがこれは、提案事業の委託料を出しているという判断か。継続した方が良いのか、しない方が良いのか、この内容はどんなことを指しているのか。

事務局 当初、この提案事業がパイロット事業として始まっていて、これまでも「この事業は続けていくのか。」などの意見をいただいたことがあり、今回、見直しの内容も含めながらこの事業そのものを継続してもよいかということを示した。

委員 制度自体の継続の有無のことで良いのか。

事務局 そのとおり。説明が不足していて分かりにくく、申し訳ない。

委員 なぜ、このことを確認したかという、いままでも市民や職員の理解や協働事業に対する意識が浸透していない、と報告を受ける中で、良いものはPR不足ということもある。「提案事業は良いものだ。」と言い続けていかないとなかなか浸透しない。この思いがあったため、この項目とどのようにリンクしていけば良いかわからなかった。

委員長 これは重要なお意見。何となく成果が見えないからやめるのではなく、十分な周知がされていないことによって成果が表れていないこともある。

継続に対する判断も必要と思う。修正（案）が提示されるが、委員の中で「実はこの事業はやめた方が良いのではないか。」と意見ができれば内

委員長 容をみていただいて、終了した方が良いのではないかというご意見があれば、終了した方が良いし、むしろ、このような点をよりPRしたり、広報をしっかり行っていけばより有効につかえるので、継続が望ましいだろう、という意見も出るのではないか。  
その他提案事業の見直しの方向性について、何かご意見あれば。

委員長 それでは、提案事業の見直しについて今日のところでどのように、ということではなく、第1回の委員会で今回の内容をふまえて上で、見直し（案）の提起をお願いしたい。  
では、以上でいただいた議事はすべてだが、何か事務局から連絡があれば。

事務局 チラシをお配りしている。「インターナショナルフォーラム」が実施される。昨年度は、提案事業で実施したが今年は違う形で行う。お時間あればぜひ、会場へ。

委員長 議題とは別に、委員から何か伝えたいことがあれば。

事務局 「まち美化パートナー交流会」が実施される。今回初めて実施。さまざまな団体が発表を予定している。

委員 以前も実施したが、今回会場が狭いが、いろいろな団体が活動状況を発表してくれるため、良い刺激のある会になると思う。ぜひ、会場へ。

センター長 「インターナショナルフォーラム」について、補足。実行委員会の中に自治会連合会から副会長が出席している。今回、防災の絡みで「起震車・AED」の体験を入れさせてもらった。今まで、他の課となかなかつながりが持てないでいた。豊田地区で外国人に対する防災訓練が行われたことも表に見える形で周知してほしいということを伝えてきた。また、企業に協賛金をいただいたが、外国人の研修生がいるところを特に意識して声をかけようと働きかけてきた。

委員長 では、意見交換も含め、ここで終了とさせてもらおう。では、事務局へ。

市民活動推進課長 長時間にわたり、ご協議いただき、また、貴重なご意見をいただいた。今年度最後の委員会。最後の委員の皆さんから何のことも良いので一言いただきたい。

委員 この会に参加して、いろいろな意見を聞き、勉強になった。参考になった。

委員 毎回テンポが速く、ハイレベルな会。勉強になっている。私たちの仕事の関係と、こちらの市民活動の内容に境がなくなっているように感じる。私たちもいろいろな協働の形で仕事を進めていかななくてはならない。市役所と一緒に進めていく仕事が多くなれば良いと思う。

委員 協働について意見を聞く中で、「これが協働か」と感じ、ここが協働を進めていく原動力なのかと感ずることもあった。いろいろ勉強をさせてもらっている。

委員 まだ2回目。ひとつひとつの単語の意味を理解している状態。ひとつ感じたことは、仕事を考え、あるべき姿をみんなと共有したとき、考えたとき、だれが何をどうする、まで落とし込まないとあるべき姿を達成できない。逆に、計画がはっきりすれば課題は達成される。協働はテーマが大きいので、市民への周知や職員の理解を深める、など誰がどこまでやるか、というところまで落とし込まないと達成できない。頑張っていたきたい。

委員 NPO法人、地域の活動をしている中で、いろいろ感じることもあり、話をさせてもらっている。今、委員の話にもあったが、企業でも最終的には個人個人がどれだけ成果を上げるか、が必要だという話だったが、まさに地域も同じだと、感じた。一人ひとりが健康でやる気になっている、地域を盛り上げる、他人のことを支えようじゃないか、ということを考えながら、小グループで活動しながら力をつけていくと、地域でいろいろなことができるようになると思う。

委員 長い期間ここに携わってきた。協働のコラボレーションという言葉と共にやってきた。ひとつの方法、ひとつの思想としてまちづくりに携わってきたということは自分の中ではよかったと思う。その反面、それであるからこそ、何とかしなくてはと独りよがりな面もあった。歴代の行政担当者はどうして？と思っていたと思う。勝手な熱意で言葉が出ていたんだ、と思っている。磐田市全体が良くなればいいこと。ご容赦いただきたい。いろいろ助けていただいた。感謝する。

わたくしごと、3月末で自治会連合会会長を卒業する。後任に任せる。

委員長

皆さんの力でいつもの確な意見交換ができています。感謝したい。副委員長がしっかりと意見を言ってくれる、このことが重要。端的に言うとこの委員会は良くなった。この委員会は、これだけの事業計画案が事務局から出てくることは、とても良いと思う。どうしたら、どうなるのか、という発想ができてきている。今まではいろいろやります、ということが出てきていただけ。これをやるとこれができる、だからこの数字を実現しなくてはいけないんだ、という形ができてきた。ロジックがしっかり組めている。戦略になっていこうとしている計画が見えてきたということは、事務局を委員の皆さんが支援されたということ。

市民活動  
推進課長

では、協働のまちづくり推進委員会を終了とさせていただきます。  
本日は、ありがとうございました。